平成 26 年度地域懇談会（南地域）

平成 27 年 2 月 28 日（土）
午前 10 時～午前 11 時 45 分
健康文化センター　多目的室

１　課題
大口町の健康づくりと介護予防
～「健康寿命の延伸」と「元気を支えるまちづくり」～
２　対象地域
南地域（秋田、豊田、大屋敷）
３　参加者
地域（３８名）
大口町
鈴木町長、大森副町長、天野健康生きがい課長、掛布課長補佐、松井課長補佐、（課題説明者：近藤和彦主査、田北保健師）
４　懇談会進行
鵜飼地域協働部長
５　司会進行
佐藤地域振興課長
６　状況
健康生きがい課によりテーマについて説明を行い、その後懇談会を実施しました。状況は以下のとおりです。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）
地域懇談会は、意見交換の場で、要望を出す場ではないことと、ご意見は長くなりすぎないようお願いします。では、ただ今担当が説明しましたことでわからないこと等質問していただきますようお願いします。
なかなか質問が出ないようですので、先ほどの説明資料の介護をだれがしているかというグラフがありましたが、最近はお嫁さんでなく息子さんが、奥さんでなく旦那さんが介護していることが増えているようです。そこでみなさんにお聞きします。みなさんはだれに介護されたいですか。手を挙げてください。奥さんに介護されたいと思う人は？　娘さん、息子さんに介護されたい人は？　少ないですね。上がっていない人はだれに介護されたいのでしょうか。いきなり施設に入りたい人もいるのでしょうか。（会

場から「ピンコロ」の声）はい。介護なしでピンコロという方法もありますね。手を上げる練習でしたが質問はどうでしょうか。

参加者 A

６５歳以上、４，８００人の内、男性が何人、女性が何人か教えてください。また豊田区でもなかなか進まないが、高齢者の地域見守り支え合いというところで、行政は行政でやってもらっているが、地域で見守り支え合いをやっている状況が分かれば教えてください。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

事務局、分かりますか。

健康生きがい課（近藤主査）

今日の資料ではわからないので、調べて後程ご報告します。

健康生きがい課長（天野浩）

高齢者の地域見守り支え合いということですが、平成２３年から各行政区で、「地域で高齢者を見守り支え合いを考える会」を実施しました。各区で意見交換をし、自分たちでこんなことならできる、また、できないかなあ、という中で、大屋敷、外坪、さつきケ丘で、高齢者の方が気楽に集まれるサロン活動が始まっています。来年度その成果として、発表をしてもらいながら、まだ始まっていない行政区にも参加してもらい、実際にやっている行政区の事例を知ってもらい、懇談会のようなことを行い、ヒントをつかんでいただきたいと考えています。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

今、大まかな話が出ましたが、もう少し詳しい内容がいいと思います。大屋敷についてどなたか説明をお願いします。

参加者 B

大屋敷には５つの地区がありますが、新田地区では単身高齢者、高齢者世帯、またみんなで見守ったほうがいいという家をピックアップして、積極的に家庭には入らず、さりげなく外から見る、そして何か異常があれば見守る人たちで情報交換をして進めています。２年半の間にどうしても見守らなければならないことがあったが行政と相談し解決し、現在は問題なくやっています。今年３月で２年になります、サロン活動を始めました。これは、社協の指導で進めています。月に１回のサロンです。スタッフが十数名、参加するお年寄りが三十数名で五十名ほど集まります。このサロンでよかったことは、スタッフの中に子ども会の役員がいたことです。子ども会の人は任期２年、他の人は３年でした始めましたが、この活動はいい、ということで年３人の子ども会役員が３年目の今は９人になりました。若

い人の力を借りて見守りをやっていくことはいいことだなあ、と思いました。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

ありがとうございました。私が聞いています情報では、地域の方だけでなく、一期一会壮という施設の方も巻き込んで、そこのスタッフに来てもらい健康体操を実施しているそうです。では、さつきケ丘についてお願いします。

健康生きがい課（掛布課長補佐）

さつきケ丘ではサロン活動を月２回やっていましたが、平成２６年度から毎週水曜日にやっています。スタッフは子ども会や健康推進委員など幅広くやっています。また、今日はだれだれさんだよ、というように参加者がスタッフとなる形です。さつきケ丘の特徴は、サロンで男性はマージャンをしています。多い時は３卓です。男性が多いことも特徴です。マージャンは認知症予防にいいということで見直されています。もう一つは赤ちゃんを連れたお母さんが連れ立ってきています。赤ちゃんを安心して自由に遊ばせておける人の目やスペースがあり、お母さん同士で話をしたりしてとてもいい雰囲気です。私が行ったときはたまたま、スタッフの一人が「今日は私の孫のデビューです。うちの嫁さんと孫をよろしく頼むね。」ということでよかったです。また外坪についても話します。外坪は最初月１回のサロンでしたが、今は月２回です。外坪は、役員さんが、今度どうしようねえ、ということをサロンの場所で話をしています。区会の寄り合いをサロンでしているような感じです。後ほど健診の話しが出ると思いますが、さつきケ丘や外坪は受診率が高いです。これはみんなで、今度いつに健診があるね、とか健診後にサロンをやったりしているからだと思います。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

ありがとうございます。今までに地域懇談会を２回やった中で、外坪地域は田んぼや畑を一生懸命やっていて、知らないうちにスポーツをしているようなものだよ、という話も聞きました。今日の資料の地区別の一人当たりの医療費の状況というのをご覧ください。外坪は高齢者の占める割合が高いですが、医療費は少ないです。また、さつきケ丘はゴミの日にチラシを配って健診に行きましょう、というようなことをやっているので、健診率が高いです。ほかにご質問はないでしょうか。

参加者 C

私は８８歳ですが、高齢者や障がい者が外に出やすいようバス停を増やしてほしい。また８５歳以上にはバスの補助があるとよい。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）
今日は健康についてのお話ですので、バスについてはちょっとお答えできませんが、外出する機会を増やす、ということについて担当課で何かないでしょうか。
健康生きがい課長（天野浩）
高齢者施策の一つとして、タクシー助成を行っています。一部所得制限がありますが、対象者は８０歳以上の方、または７５歳以上の単身者の方、あるいは介護保険を受けている方です。年間４８回分で、タクシーの基本料金一回分に使える助成、外出支援を行っています。
座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）
地域でもサロンを行っていますので、それも外出のきっかけになると思いますのでご利用ください。
参加者 C
障がい者は災害の時お手伝いいただけるのでしょうか。
健康生きがい課長（天野浩）
災害が起きたときに自分で非難できない方をどう支援していくか、ということで、災害対策基本法が東日本大震災の後変わりました。個人情報もありますが、町で把握している高齢者、障がい者、妊婦さんの情報をもとに支援を行います。あと、災害時に自分で非難できない人は、事前に誰かお一人、自分を支援してくれる人を決めたうえで、災害時には自分の情報を助ける機関等に提供してもいいよ、という同意のもとに、支援できる体制のマニュアルを作りました。実行はこれからですが、全町で開始するのは難しいので、行政区、または地域自治組織の単位で行っていきたいと考えています。近いうちにご相談させていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。
座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）
ありがとうございます。
参加者 D
在宅介護の主な介護者についてですが、私は介護４の家族を在宅介護で看取りました。その経験から、地元で主治医を持つことが重要です。主治医があると、発熱時など介護グループの人が来てくれ、主治医の指示により薬や点滴をしてくれます。また私が外出しなければならない時、３０分単位でヘルパーさんが来てくれます。多くは夫や妻が介護をしていますが、ヘルパーさんが来てくれることで週末もなんとなりました。自宅にいても調子が悪くなると救急車で病院に行き、たくさん管をつけられてかなり長

引きます。本当にそれで幸せなのかなあ、と思いました。今は自宅にいても良い制度ができてきたので、みなさんもそれを使っていただきたいと思いました。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

ありがとうございました。いいご意見をいただきました。何か参考になるようなことはないでしょうか。

健康生きがい課長（天野浩）

地域包括ケアシステム、というものがあります。多くの高齢者は少しでも住み慣れた地域で過ごしたいと思っています。そんな中、平成２７年から介護保険制度が変わり、医療と介護、介護予防、生活支援、住まいを地域で構築することで、できるだけ住み慣れた地域で、在宅で生活ができるように、というシステムを、国を挙げて地域に作っていくものです。団塊の世代の方が７５歳になる１０年後にむけて、この地域包括ケアシステムを今の段階から町としても取り組んでいきたいと考えています。

健康生きがい課（掛布課長補佐）

先ほど、６５歳以上の男女比のお問い合わせがありましたが、１０月１日の日本人の資料ですが、男性が２，２５７人、女性が２，６９６人、計４，９５３人です。割合は、男性４５．５６％、女性５４．４４％です。

参加者 E

家にいる間はいいが、施設に入るにはお金がかかります。年金の範囲内、１０万円以下で入れるように考えてほしいです。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

施設に入った時の経済的なことですね。

健康生きがい課（掛布課長補佐）

施設入所にかかる費用の問い合わせと思います。国民年金しかない世帯ですと、特別給付ということで部屋代、食事代が安くすむ制度があります。特別養護老人ホームである御桜の里では６万円くらいで生活できます。ただし、今後介護保険の制度が変わり、今までは要介護１で入所できましたが、今後は要介護３以上でないと入所が難しくなります。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

詳しくは個別にご相談いただきますようお願いします。

参加者 F

人口比率はあまり違わないが、要介護認定を受けている割合は、男性１に対して女性が約２倍ですが、要因はあるのでしょうか。また、提案ですが健康推進委員さんと行政区、自治組織がタイアップして、大口町でモニタ

ーをやっていただける方をつくって５年くらいモニタリングをして、１年ごとに状況を把握して町民の実態調査ができるといいのではないでしょうか。これは意見ですが。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

２つですが、一つは女性の看護認定が倍くらいある理由、もう一つは健康面でのモニタリングの提案ですね。

健康生きがい課（掛布課長補佐）

要介護認定者の男女比ですが、まず平均寿命が男性と女性で違います。女性８７歳、男性８０歳です。この差が一つあります。しかし、平均寿命については、男性は戦争で多くの人がなくなっていますので、今は女性と同じくらい生きられると思います。介護認定を受ける原因としては、７５歳を超えると認定を受ける確率が高くなります。でも男性は７５歳前に脳梗塞や脳出血で体が不自由になり認定を受けることがあります。女性は年齢とともに足腰が弱ってきて、認知が出てという形です。こういうところが男女の差ではないかと思います。

健康生きがい課（松井課長補佐）

現在大口町で２万人体力測定ということで、みなさんに体力測定をしていただき、健診のデータと合わせて健康状態にご自身で気づいて、よいところを高める行動を促す、という活動を２、３年行っています。今提案をいただきまして、ただデータをとるだけでなく、この中でモニターさん、ということも考えてみたいと思います。

健康生きがい課長（天野浩）

２万人体力測定の目標を掲げてやっていますが、まだまだ２万人には程遠い状況です。どうやったら体力測定に参加していただけるか、こういうふうにやれば自分たちも参加するよ、といったご提案があればいただきたいと思います。老人クラブの方にはやっていただいています。例えば行政区ごと、地域自治組織ごとに、こんなような形でやれば自分たちも参加できるよ、というようなことをご提案もらえないでしょうか。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

今度は職員から提案させていただきました。何か良い提案はないでしょうか。

参加者 G

体力測定というのは、どこかに行かないとできないのでしょうか。家で、自分でできますか。また対象の年齢はありますか。

健康生きがい課（松井課長補佐）

毎月ここのトレーニングセンターで定期的にできるものと、老人クラブや団体さんからの要請で出向くものがあります。年齢は問いません。

参加者 G

自分たちのように仕事をしている年代は、なかなかそこに行くことは難しいです。ゲームのように家でやって、それを郵送するとかだといいと思います。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

よいご意見をいただきました。来ていただいたり、出向いて行くのではなく、地域の方が自分たちでできる方法も考えるといいですね。

副町長（大森滋）

先ほどの８８歳の方（参加者 C）にお尋ねします。私たちはこれから７０歳、８０歳になっていきますが、人生を積み重ねてこられる中で、あの時こうしておけばよかった、こうするとよい、といったお話があれば聞かせてください。

参加者 C

何ということはございませんが、自分でなにか趣味を、死ぬまで楽しめるものを持つといいと思います。

健康生きがい課長（天野浩）

では、私の方からお願いですが、先ほどの資料をご覧ください。医療、介護、介護予防、生活支援、住まいを一体的に提供できる、地域包括ケアシステムの構築ですが、この中で生活支援、介護予防の担い手の事例として、老人クラブ、自治会、ボランティア、NPO 等があります。今介護が必要な方の生活支援はヘルパーさんが担っています。介護保険法の改正後は、身体的な介護等はヘルパーさんが行い、生活支援の部分を、老人クラブ、自治会、ボランティア、NPO といった団体に多様な担い手となっていただければと考えています。そんな簡単なものではないと思いますが、みなさんにご相談させていただきながら、できる範囲で、たとえば生活支援のこんなことならできるよ、といったことを伺いながら進めていきたいと思いますのでよろしくお願いします。また、ある行政区の一部では、ゴミ出しを地域の方が高齢者の見守りを兼ねて行っている、という取り組みもあるようです。こういったことが介護保険法の地域包括ケアシステムの中に位置づけられましたので、みなさんのお力添えがいただければ、と思っていますのでよろしくお願いします。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

今まで地域懇談会を３回行ってきまして、健康の話をするのに、お金の話

をするな、という意見もありましたが、人とお金があれば行政でできるのですが、それがないのでみなさんの助けを必要としているわけです。ここで鈴木町長に伺います。就任され１年と数ヶ月が経ちましたが、町長になる前の大口町となってからの今の大口町について、特に予算面でいかがでしょうか。

大口町長（鈴木雅博）

就任前は、大口町は財政の豊かな町という印象でした。しかし、実際は予算をつくっていく中で、税収より支出が多くなってしまい、各課に削るよう指示をしています。すぐに削れるのが土木費です。できる範囲内でやらせてもらっています。そのような中で去年からの１年間で医療費が１億円増えています。みなさんが健康に過ごせて、例えばこの１億円が５千万円になれば５千万円が別のことに使えるわけです。大口町は不交付団体であるがゆえに国からの交付金がもらえません。今年、企業は収益が上がりましたが、設備投資の関係で税収は増えていません。景気がいいといわれますが税収は上がっていません。近隣の小牧や犬山、江南などと比べて大口町は道路の舗装が傷んでいます。これは不交付団体であるため、みなさんからいただいた税金でしか補修ができないからです。しかし交付団体は国から交付金をもらうわけですが、これはあくまで借金で、次世代の子供や孫につけを回すことになってしまいます。ですから我々は自分たちのできることをやっていかなければならないと思います。今後もみなさんと一緒に、大口町をいい町にしていきたいと考えています。そうするために、みなさんのご協力をいただきますようお願いします。

座長・地域協働部長（鵜飼嗣孝）

町長、ありがとうございました。今町長が話しました予算のことですが、１０年前は民生費が１８億円だったのが２５億円です。割合ですと全体の２４パーセントであったのが３１パーセントになりました。このまま放っておくと膨れ上がってしまいますが、今日の話の中で、みなさんが健康でいていただけると医療費分が下げられる、ということになります。そうすると、町長が言いました、その分を事業に充てることができる、ということです。次に人口ですが、大口町全体で人口は増えていますが、増えているのはほとんどが６５歳以上の方です。地区別でみると外坪は人口が減っています。外坪区長さんによると、企業の寮がなくなり若い人が減った、ということでした。そうすると、町内の企業が可児市など町外へ出ていってしまうと人口が減ることになってしまいます。若い人が減るのでいきなり高齢化が進むことになる、という可能性があります。今まではお金があ

りましたので町でいろいろなことができましたが、これからは何をやるか、これは町でやりますが、ここからはみなさんのご協力をいただきたい、というようにお願いをしていくことがあるかと思いますが、ご協力をお願いします。本日はどうもありがとうございました。